

TOGAF・ArchiMateに基づく システムインフラストラクチャの図式表現による ITシステム要求要件の明確化・標準化 ～京都大学でのモデリング検証～

阪本竜大¹⁾ 淡路哲彦²⁾ 山崎恵以子²⁾ 西沢厚²⁾ 集治章浩²⁾
来海清³⁾ 青木優⁴⁾
青木 学聡^{5),6)} 梶田 将司^{5),6)}

- 1) 富士通株式会社 西日本営業本部 京都支社
- 2) 富士通株式会社 文教・地域ソリューション事業本部
- 3) 富士通株式会社 プロフェッショナルサービス本部
- 4) 富士通株式会社 サービステクノロジー本部
- 5) 京都大学情報環境機構 IT 企画室
- 6) 京都大学学術情報メディアセンター

sakamoto.ryuta@fujitsu.com

概要

エンタープライズアーキテクチャ (EA) は、2000 年代中頃から政府機関や民間企業での導入が開始され、最近では、デジタルトランスフォーメーションの流れの中で世界レベルの民間企業で急速に普及しつつある。中でも、The Open Group の TOGAF や ArchiMate は、EA 業界におけるデファクトスタンダードとして認定取得者が増え、業界内・業界間での EA 開発も活発化している。我が国の民間企業や政府機関では EA の導入が遅れているが、最近になって一部の企業での TOGAF9 認定者が急速に増えてきている。

このように EA に関わる人材が増えつつある状況で、各企業・大学での EA 導入にはその参照モデルが欠かせない。実際、国際レベルでは、業界内・業界間の EA 開発が航空、資源探査、ヘルスケア業界等で行われてきており、大学 ICT 推進協議会の姉妹組織である米国 EDUCAUSE においても、ミシガン大学・ワシントン大学・イェール大学等が主導する EDUCAUSE ITANA が立ち上がり、各大学におけるエンタープライズアーキテクチャに関する取り組みやベストプラクティスの共有を行っている。

本セミナーでは、京都大学汎用コンピュータシステムを題材に、大学におけるエンタープライズアーキテクチャの適用可能性を探る。特に、TOGAF および ArchiMate を用いて稼働中のデータベースシステムを対象にモデリング検証を行い、他大学にも活用できるリファレンスモデルとなるかについて有効性を評価した結果を報告する。